



REAL RACING

日程：公式予選 9月24日（土） / 決勝レース 9月25日（日）

会場：スポーツランド SUGO（宮城県）

天候：晴れ

気温：27℃ / 路面温度：34℃

コースコンディション：ドライ

観客：24日(土)6,700人 25日(日)14,000人

9月24日(土)、25日(日)宮城県のスポーツランド SUGOにて、2016年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦が開催された。

24日(土)予選日。朝の9時から始まったフリー走行は、秋めいた空が見られるものの、前夜の雨の名残でウェット宣言が出されていた。チームの団結力を高め、予選日を迎えることができた REAL RACING の#10 塚越と#11 伊沢は、この1時間のフリー走行で、決意も新たに、予選に向けたマシンの最終調整を行った。

ノックアウト方式で行われる公式予選は13時より開始。曇り空、気温25℃、路面温度は29℃でコース上はドライというコンディションの中、まずは20分間のQ1がスタート。USEDタイヤでコースインした塚越と伊沢は、コース、タイヤの状態を確認しつつ、アタックを開始。その後マシンを一度ピットに戻し、微調整を行い、残り時間が7分というところで、Q1前半のタイムを更新すべく、再度コースイン。猛烈な勢いでアタックを続ける塚越と伊沢。その結果、塚越が1'06"344というベストタイムを計測し14位にてQ2へ進出。伊沢は1'06"617というタイムで18位となり、残念ながらQ1で敗退となった。

13時半、14台から8台に絞られるQ2がスタート。7分間という短い計測時間の中でアタックに入る#10 塚越。迎えた4周目、1'06"057というタイムでベストタイムを更新するも、結果は12番手タイムとなり、Q3への進出は叶わず、ここで予選を終えることとなった。

翌日の決勝のスタートは#10 塚越が12番手から、他車にペナルティによるグリッド降格があり、#11 伊沢は17番手から前車を追い上げる事となった。

<http://realracing.jp>



REAL RACING

25日(日)前日の曇り空から一転、汗ばむような暑さとなったスポーツランド SUGO で全第6戦の決勝レースが行われた。68周 250キロのレースは気温 27°C、路面温度 34°C というコンディションで 15時 15分にスタート。オープニングラップで3台のマシンを抜き去った#11伊沢は、15番手まで浮上。5周目にはマシントラブルでコースアウトした他チームのマシンがリタイヤとなったため、14番手まで順位を上げた。一方塚越は、オープニングラップで1台のマシンに先行を許すが、5周目に順位を12番手に戻し、虎視眈々と後半の追い上げに向けた走行を続ける。10周目の終わりにピット作業に入ったのは、#10塚越。給油を行い再度コースイン。その翌周には#11伊沢もピットインし、給油と一部タイヤ交換のみを行い、2台共に早めのピット作業で後半でのタイムアップを図り、追い上げる作戦をとった。18周目、他チームの1台がコースアウトし、セーフティカーが導入されることとなる。セーフティカーがコースに進入する前に、ピット作業をおえていなかった他チームが続々とピットイン。大半のマシンがこのセーフティカー導入と共にピット作業を終えることとなる。セーフティカーが22周目の終わりに退出すると、#10塚越は12番手、#11伊沢は15番手でレースの再スタートが切られた。前車を追い上げるべく、寸分の隙も逃さず果敢な走行を続ける塚越と伊沢。31周目には、#11伊沢が1台のマシンをパスし、14番手に順位を戻す。一方塚越も、35周目に1台の先行マシンをパスし、11番手に順位を上げた。その後も尽きない闘志を燃やし、前車をプッシュし続ける塚越と伊沢はレースが終盤に差し掛かったところで、ベストタイムの更新を続けるが、結果としては、#10塚越は11位でチェッカー、#11伊沢は44周目に、マシントラブルで他チームの1台がマシンをピットに戻したため、順位を一つ上げ、13位でチェッカーを受けることとなった。

次戦は1か月程の間を開けて開催されます、最終戦の鈴鹿サーキットです。REAL RACINGにとってホームコースとなる鈴鹿サーキットで、平素多大なるご声援をいただいております皆さまのためにも、他チームに一矢報いるレースをお見せしたいと思っております。

皆様の応援をよろしくお願いいたします。